公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	コペルプラス八尾教室		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41人	(回答者数) 20人
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	コペルプラスの基本プログラムを用いての療育訓練および、お子様の個性や特性、発達段階に応じた個別対応訓練の導入ができる専門性の高い支援体制	お子様の個性、特性、発達段階に応じた支援提供をするだけでなく、その都度客観的分析をして支援の見直しを行っています。	職員全体でより良い専門性の高い支援を実施する為、スキルアップ研修会や事例検討会の実施、及び日々の療育支援での計画的な準備、振り返りを徹底しています。
2	保護者様に療育場を觀察していただくことで、事業所内での相談援助が密になることはもちろん、ご家庭と情報共有しながら足並みをそろえた発達支援ができる。	保護者様とのコミュニケーションに力を入れています。ご相談内容に対しては、その場しのぎの対応ではなく将来の自立を見据えた相談援助をしています。お子様の状況に合わせて、段階的なステップアップをご提供しております。	当事業所で過ごす様子ばかりでなく、集団生活やご家庭での状況も細かく聞き取りしております。お子様の関わる全ての機関が連携し、同じ思いを持って支援を実施することができるように、各機関とも積極的に情報共有を行っております。
3	知育プログラムを用いた特徴的な支援の中で、お子様のご年齢や発達段階に見合った訓練を実施することが可能	乳幼児期には興味関心を広げる支援を、幼稚園、保育園では園生活を充実させるための支援を、また就学に向けては学校生活に向けての準備期間として支援を行っています。段階的に個別療育と集団療育を組み合わせながらのご利用をご案内しています。	お子様の年齢やご状況によって、必要な療育支援は異なります。標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントで支援の方向性を定め、インフォーマルなアセスメントとして長期的に日常場面の行動観察を行いながら、着実な支援を心がけ実施しております。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	食事や排せつ、衣服の着脱(一部訓練可能項目あり)などの生活動作訓練の実施に限りがある。	日常生活のお預かりをする療育スタイルではないため、生活動作をともなう支援に限りがあります。しかしながら短時間の中でも取り入れられる生活訓練は多様で、個別支援計画に導入しながら取り組んでいます。	生活に必要な動作の部分的訓練においては、これまで通り支援を継続します。また幼稚園、保育園等集団生活に属していない該当児の場合は発達段階を加味しながら時に必要となる生活動作獲得に向け、日中支援型の療育事業所を適宜、各ご家庭にご案内しております。
2	福祉事業所のマニュアル整備や法体制についてのご案内が浸透しづらい	福祉サービスをご利用いただくにあたり、事業所で義務化されている法体制、マニュアルの策定等に関して周知が不十分であると考えます。分かりやすい内容説明や、ご説明に必要な時間の確保などが課題となります。	福祉サービスにおける利用料や義務化されている取り組みについてご契約時にご説明をさせていただいております。お伝えをした上でも周知にばらつきが出てしまう、安全計画に基づく防災や事故防止、感染症対策や不審者対応等、事業所として実施している体制に関しては伝達方法に工夫をし改善に努めて参ります。
3	スペースの不足	集団療育時や粗大運動時に、スペースの広さが不足し、動き辛いとのご意見をいただいております。特にコミュニケーショントレーニング時にはより広い空間が必要だという意見がありました。	限られたスペース内ですが、プレイルームの使用の検討をしていきます。お子様がのびのびと動け、且つ怪我のないように充分配慮し、安全な環境作りを進めていきます。